

幼児の立位姿勢の安定性について

—鬼ごっこに着目して—

山口 裕也 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)

指導教員 新宅 幸憲

キーワード：幼児，鬼ごっこ，矩形面積

1. 緒言

日本の子どもたちの遊び状況は，すでに1970年代から指摘されてきたように，空間的・時間的に遊びが圧迫され，タテ型の遊び集団で伝承されていた遊びが伝承されにくくなっている．この中でも鬼ごっこは，ジグザグに走る，追う，逃げるなどの動作を含む．追いかけるなどの遊びは，瞬発力，柔軟性，平衡性，敏捷性の発達を促す．追う，追われるなどの動作を，スムーズに切り替えるには，安定した姿勢が必要だと仮説を立てた．そこで，静的平衡性である重心動揺と敏捷性の発達を促す鬼ごっこの関係性を明らかにすることを目的とした．

2. 対象および方法

対象：大阪府k幼稚園に通園する年長児の5歳児及び6歳児（男児：35名，身長119.2±5.0cm，16.6±2.4kg，年齢5.3±0.4歳，女児31名，110.6±5.5cm，18.3±2.5kg，5.16±0.5歳）の計66名で実施した．調査項目は一辺5mの正方形の中でタグ付き鬼ごっこを行い，タグの獲得数の測定を行った．アニメ社製ポータブルグラフィコーダー（GS-7/GS-10）を用いて，開眼および閉眼時に各30秒間の立位姿勢時の重心動揺の測定を行った．

3. 結果と考察

タグを獲得できなかった群をA群（n=19），1～2本獲得できた群をB群（n=32），3～6本獲得できた群をC群（n=15）とする．閉眼時におけるB群の矩形面積の平均値25.9±19.8cm²，C群の平均値17.7±10.5cm²を示した．B群とC群でt検定を行った結果，閉眼時矩形面積においてB群とC群との間にp<0.05で有意な差が認められた（図1）．矩形面積の値を小さくするには前後左右の重心の動きを制御しなければならない．入川によると，下腿三頭筋には，身体重心の前方への移動を制御する作用があると述べている．敏捷性を評価するテストとして，反復横跳びがある．鬼ご

っこの切り替えし行動と反復横跳びは類似していると仮定した．本研究のタグ付き鬼ごっこは四方5mの正方形という狭い空間の中で試行したため，細かい切り替えしが発生されやすくなっている．このことから瞬発系の運動に対応している下腿三頭筋が関係するものと推察された．以上により鬼ごっこのタグの獲得数上位群（C群）と数値が矩形面積との間に有意な差があったのは，立位姿勢の保持と切り替えし行動に関係している下腿三頭筋に関係性があると考察した．

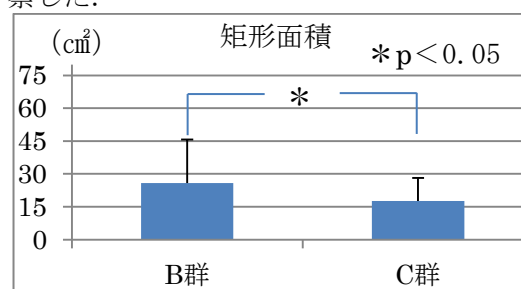


図1 閉眼時矩形面積の比較

4. まとめ

本研究では，タグ付き鬼ごっこでのタグ獲得数の多い幼児は矩形面積が小さく，立位姿勢が安定していると推察した．

引用・参考文献

- 天田邦子ら（1998）保育における鬼ごっこ遊びの考察. 児童文化研究所所報. 20：52-69.
- 入川松博（1980）立位姿勢の制御：下腿三頭筋について. 日本体育学会大会号（31）：430.
- 新宅幸憲ら（2012）垂直腕立て支持姿勢の身体動揺と立位姿勢における重心動揺について空手のこどもに着目して. 日本体育学会大会予稿集.（63）：191.